



いわて医療通信
肝臓の疾患⑧

原発性胆汁性 胆管炎

肝臓の疾患の最後として
原発性胆汁性胆管炎(PBC)
という病気の説明で締めく
くりたいと思います。

以前に肝臓の機能・しく
みについて記載しました。
そこで肝臓は胆汁の生成を
行っていると述べましたが
肝臓には肝細胞でつくられ
た胆汁が排泄される管、す
なわち胆管系があります。
これは、はじめは隣り合っ
た肝細胞によって作られる
とても細い、顕微鏡を使わ
ないと見えないような毛细
胆管という細い管に始まり、
これがいくつも合わさって、
だんだんと大きくなり、一

本にまとまり太い管となっ
て肝臓から出て行きます。
PBCという病気は、中
年の女性に発生することが

多い特徴的な病気です。本
症発症の原因はまだよくわ
かっていませんが、自ら毛
細胆管に対する免疫を作っ
てしまうことによって徐々
に破壊される病気です。そ
のため胆汁の流れが悪くな
ります。血液検査をすると
アルカリフォスファターゼ
(ALP)やガンマ・グルタミ
ル・トランスペプチダーゼ
(γ-GTP)などの酵素が通
常よりもかなり高い数値に
なります。その結果『慢性肝

内胆汁うっ滞(慢性非化膿
性破壊性胆管炎)が起り、
最終的には肝硬変へと進行
していきます。

現在では、無症候の状態
で診断がつき、PBCと診
断されても肝硬変に進行し
ていない人が大部分です。
やはり胆汁が流れにくくな
る結果、血中コレステロー
ルが上昇したりといった肥
満に関する状態に似ていま
す。体のだるさなど肝臓の
働きが低下すると、眼球や
皮膚が黄色くなる黄疸の症
状や、浮腫むくみを起こすことも
あります。そのため、早期
発見にはかかりつけ医や人

間ドック、健康診断などで
の採血検査が重要となりま
す。

岩手医科大学は2017年
創立120周年を迎えます



誠のあゆみ、未来へつなぐ

Iwate Medical University 岩手医科大学